

テレビ会議システムを利用する海外中学校との国際交流 —香川大学教育学部附属高松中学校と上海師範大学附属外国語中学との実施報告—

日 詰 裕 雄, 松 下 文 夫*, 山 崎 敏 範**
(附属高松中学校) (教育実践総合センター) (香川大学工学部)

761-8082 高松市鹿角町394 香川大学教育学部附属高松中学校
*760-8522 高松市幸町1-1 香川大学教育学部附属教育実践総合センター
**761-0396 高松市林町2217-20 香川大学工学部

International Cultural Exchange Program Using Television Conference Systems

-Report of a Pilot Program between Takamatsu Lower Secondary School Attached
to Faculty of Education Kagawa University and Foreign Language Middle School
Affiliated to Shanghai Teacher's University-

Hizume Hiroo, Matsushita Fumio *, Yamasaki Toshinori **

*Takamatsu Lower Secondary School Attached to Faculty of Education Kagawa University,
394 Kanotsuno-cho, Takamatsu 761-8082*

** Faculty of Education, Kagawa University, 1-1 Saiwai-cho, Takamatsu 760-8522*

*** Faculty of Engineering, Kagawa University, 2217-20 Hayashi-cho, Takamatsu 761-0396*

要 旨 ゆとりと家族の触れ合いを期待する学校完全週5日制は、これまでの学校教育の在り方にも大きな影響を与えている。香川大学教育学部附属高松中学校では、平成14年度よりPTA組織「梅香会」が、生徒と保護者の参加する「プラム倶楽部」を企画した。本稿では、テレビ会議システムを利用する上海師範大学附属外国語中学との交流経過を報告する。テレビ会議システムの実施では、ネットワークや接続機器の選定から実施のための要員確保など、今なお多くの作業を要する。ここでは、交流実現に至るまでの事前準備や交流状況を具体的に述べる。

キーワード テレビ会議システム 上海師範大学附属外国語中学 国際交流
大学・学部との連帯 学校完全週5日制

1 はじめに

新学習指導要領の完全実施により、中学校現場では平成14年度から学校完全週5日制が始まった。香川県下の中学校では、校長会の申し合わせにより、第1土曜日と第3日曜日を部活動休業日とすることとした。第1土曜日は、研究会活動を優先する休業日とし、以前から家庭の日として定められていた第3日曜日をPTAや地域、更には家庭で有効に活用すべき日とすることになった。

附属高松中学校（以下「本校」と呼ぶ）では、

第3日曜日を生徒と保護者とが一緒になって活動できる行事を、PTA組織の「梅香会」が中心となって企画運営することになった。

そこで、初年度となる平成14年度は教養・文化・スポーツなど親子がふれあう事業を年4回開催することとなり、生徒や保護者にアンケート調査をしたり梅香会役員会での協議を通して、次のような年間計画が決定した。

会の名称：プラム倶楽部

第1回目：水餃子教室

第2回目：県外への研修旅行

第3回目：ボーリング大会

第4回目：生きる力を育む講演会

2 水餃子から国際交流へ

梅香会の本年度の新規事業を企画運営推進するにあたり、当初は元梅香会総務部長の姜華英さんの「水餃子教室」を開催して、親子で一緒に水餃子を作り、食べる事業を計画した。

その後、発想は思い切り広がった。折角中国伝統の水餃子を作るのであれば、同じ小麦の食文化である『うどん』に親しんでいる讃岐っ子を中国の『小籠湯包子』に親しんでいる上海っ子と交流させたらどんな成果があるだろうかとの企画が出た。

前途は艱難辛苦の連続であった。梅香会金倉謙次会長の上海市訪問に始まる敢為により、上海師範大学附属外国語中学との交流が実現した。10月20日TV画面に映った異国の同世代の若者の姿を見て、歓声があがった。

3 テレビ会議システム準備経過

【6月9日（日）】

1年生の保護者で在日中国人の馮旗さんを招いて、梅香会役員と第1回目の打合せを行う。

○中国の学校には日本のPTA組織にあたるものなし。

○学校制度は日本とよく似ている。

○中国の附属学校は、大学の教職員の子どもが通う学校。

○馮さんの出身地は、広西省の省都南寧市であるが、学校にテレビ会議システムはおろかインターネットの接続もなし。

○香川大学の姉妹大学が中国にあるかどうか確認して、交流校を探すこと。

○設備の整っている学校を探すこと。

【6月12日（水）】

工学部の山崎敏範先生を訪問して協力を依頼する。香川大学工学部と姉妹協定を結んでいる上海大学の延長校区について、以下の点の確認をお願いする。

○大学内にテレビ会議システムが設置されているかどうか。

○大学に附属中学校があるかどうか。

【6月17日（月）】

教育実践総合センター松下文夫先生を訪問して協力を依頼し、次の助言を頂く。

○アメリカ合衆国との間での先行経験あり。

○インターネットで接続し、MS-Windows上のNet-Meetingを使って成功した。

○上海市内にISDN回線が敷かれているかどうか確認すること。

【6月18日（火）】

工学部の郭書祥先生を訪問し、協力依頼をする。

○上海大学延長校区との下交渉は、郭先生がして頂けることとなる。

○上海大学の延長校区が、9月に附属中学校を開設するとの情報を頂く。

【6月20日（木）】

本校の設備を確認のため、郭先生来校する。

【9月17日（火）】

上海大学を訪問して帰国した郭先生から、次のような報告と助言を受ける。

○上海大学Gong副学長に附属中学校との交流を依頼するが、国際交流の条件が整っておらず難しい。

○Gong先生の紹介で、9月13日に同行していた工学部の秦清治先生と一緒に上海師範大学へ挨拶に行き、国際交流処の倪明祥副処長と陸紅玉副教授と会う。

○上海師範大学は京都教育大学と国際共同研究も行っており、前向きに検討するとの回答を得る。

○平成14年春、上海師範大学から本学教育学部に交流の申し出があったことから、正式の交流協定を締結した後、附属中学校間の交流を進めるほうが良いとのこと。

【9月18日（水）】

○学部長に会い、学部が上海師範大学との交流協定を前向きに検討しているこの時期、両大学の附属中学校同士の試行的な交流を実現して、正式協定への露払いを行いたいと伝える。

○秦先生の研究室を訪問して、仲介の労をとって頂いたことへのお礼と、今回の交流はあくまでも試行的なものであることを学部長に伝えたことの報告をする。

【9月19日（木）】

秦先生から、上海師範大学国際交流処陸先生からのメールが転送され、次のことを確認する。

○9月13日訪問の趣旨を楊学長と国際交流処長に伝えた。

○3附属中学校の校長と相談して、交流校を決定する。

○交流校の最終決定は、仲秋節と国慶節の大型連休後となる。

陸先生に本校から直接メールを送り、次のことを伝える。

○「上海師範大学附属中学校との交流事業について（案）」の本校の基本的な考え方。（図1）

○金倉会長が、上海市を訪問する機会があるので、9月23日に貴大学を表敬訪問したいこと。

○その折に、本校を紹介できる資料として次のものを持参するので、ご笑覧頂きたいこと。

・学校要覧と教育計画の合本の『梅林』

・生徒会編集の『附中新聞』

・P T A新聞『梅香ニュース』

・交友会誌『梅園』

・附属高松学園だより『悉驅嚮學』

【9月25日（水）】

帰国した金倉会長から、上海師範大学を訪問しての報告があり、実現に向けて一歩前進したことを確認する。

上海師範大学附属中学校との交流事業について（案）

1 実施日時

2002年10月20日（日）午前10時～午前11時（中国現地時間）

2 事業のねらい

アジア諸国は、距離的に近く、歴史的にも深い関係がある。取り分け中国との関係では、我が国の文化の源の多くが中国にあることや、現在1年生に2名の中国籍の生徒が在籍していることもあり、生徒は他の国々に対してより大きな興味や関心をもっている。

国内的には、日中の相互理解が順調に進んでいるとは言い難く、政治・経済面では常に話題には上るものの、次代を担う若者のための情報は十分とは言えない。

そこで、今回休日の第3日曜日に生徒と保護者とを対象とした梅香会(PTA組織)新規事業の「プラム倶楽部」を計画するにあたり、上海師範大学附属中学校の生徒やその保護者との間で、テレビ会議システムを利用しての交流を企画した。先ず、バーチャルな交流を体験させ、将来的には直接語り合う体験をも企画することによって、豊かな国際感覚の涵養を図るとともに、友好親善を深めることをねらいとしたい。

3 事業の概要

今回の事業を2部構成とする。第1部を上海師範大学附属中学校との交流とし、第2部を在日中国人の方を講師とした本校だけの「水餃子教室」とする。

上海師範大学附属中学校との交流では、「小麦粉」に焦点をあてた「食文化」について、双方の中学生からの情報発信と、保護者による子どもの食生活に対する親としての心配事などの情報交換をする。使用する言語は、両国の母国語と英語とする。

本校の位置する香川県は、古くは「讃岐国」と呼ばれ、西暦774年には郷土の偉人「弘法大師空海」が県の西部の善通寺で生まれた県として有名である。空海は、804年入唐し長安に行き、青龍寺の恵果和尚から真言密教の全てを伝授され、帰国した。この时空海が持ち帰ったものの中に、饅頭の製法もあったと伝えられており、現在「うどん」は香川県の代表的な食となっている。

同じ小麦粉を材料とした食でも、上海では「小籠湯包子」が有名であるが、別の地域に行けば「餃子」が主流となっていることなどや、我が国でも別の地域に行けば「団子」が主流のところもあるなど、それぞれの地域にはその風土や歴史の中でその地域独特の食文化が生まれたことを知ることで考えられる。

日中国交正常化30周年の記念すべき本年、今回の事業を通して日中の15年戦争から始まる正しい歴史認識を獲得することや、現代の歴史教科書をめぐる問題を考える素地となることと期待している。

図1 上海師範大学附属中学校との交流事業について

【10月8日（火）】

上海師範大学国際交流処陸先生より、10月20日に何れかの附属中学とで実施しようとの返事の電子メールあり。

【10月9日（水）】

松下先生を訪問し、テレビ会議システムを利用する際の留意事項についてご指導を頂き、次の事項の確認を指示される。

○I S D N回線が使用可能かどうか。

○国際電話がかけられるかどうか。

山崎先生を訪問し、実施上のご指導を頂く。

工学部の松原行宏先生や院生の支援も頂けるとのこと。

【10月10日（木）】

○テレビ会議システムの調整をしてもらう。

○午後4時前、松原先生と4名の院生（稲見・萩原・島田・西田君）来校。

○午後4時過ぎ、本校と総合センターと繋がる。山崎先生、松下先生に総合センターで指導して頂く。

○上海側が、テレビ会議システムではなく、インターネットで接続し、MS-Windows上のNet-Meetingを使って実施しようとしていることが分かり、山崎先生本校へ移動する。

○翌日、13時から再度試験することを約束して終了する。

○ソニーの上海側のディーラー（Samさん）に電子メールを送信する。

【10月11日（金）】

○12時過ぎ、山崎先生と3名の院生来校。梅香会宮内利弘副会長も来校する。

○13時から、MS-Windows上のNet-Meetingにて、双方より接続を試みるも不調に終わる。

○先方のIPアドレスにピングが通るかどうか試みるが、前後の番号までは通ることが判明するも、目的のアドレスには通らず。

○上海側のコンピュータのIPアドレスを「94」に設定してもらい、こちらから接続するが不調に終わる。

○午後4時過ぎ、上海側から、「今すぐにI S D N回線を敷くから、5時半から再度試験しよう」との提案あり。

○5時半過ぎ、上海側から再度連絡有り。本日に回線を敷くことは困難であり、明日完了するので、10月14日午前10時から電話回線を利用してのテレビ会議システムで試験をしようとの再提案あり。

○この間、3回F A Xにてこちらの設定や、今後の段取りを送信する。

○その後高松側だけで、コンピュータ上のMS-Windows上のNet-Meetingとテレビ会議システムとの接続が可能かの実験をし、可能であることの確認をする。

○14日は、院生2名総合センターへ、2名は本校へ来ることの確認をする。

【10月13日（日）】

○ソニーの上海側のSamさんから返事のメールあり。

○本校に設置しているテレビ会議システムP S C-1600（SONY製品）のI S D Nの電話番号を再度連絡してほしいとのこと。

【10月14日（月）】

○午前9時、院生2名と学部4回生1名来校する。宮内副会長、山崎先生来校する。

○テレビ会議システムで総合センターと接続を試みるも不調。松下先生から連絡があり、総合センターの電気工事の関係にて、附属との接続は出来なくなっているとのこと。全員、総合センターへ移動する。

○Samさんから返信のメールあり。内容は次の通り。

・上海側のIPアドレスは固定でないこと

・電話回線での接続しかうまくいく方法はないこと

○午前10時上海の金倉会長に連絡する予定であったが、国際電話がかけられる環境の電話なし。学部事務室で試みるも不能。近隣の民間会社にて電話を借り、金倉会長と連絡をとる。

○上海側のI S D N電話番号の連絡を受ける。

○午前11時頃、通じる。双方から歓声とガッツポーズで交信が始まる。（図2）

○約30分間の交信中、全くトラブルなし。1本の電話回線であったが、極めて鮮明な画面である。

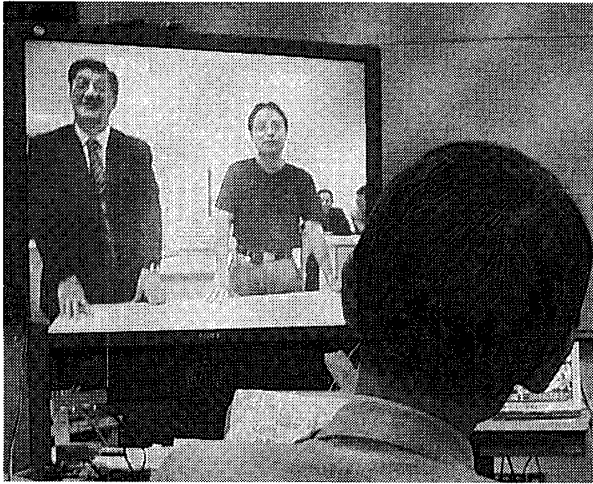


図2 事前交信の様子(教育実践総合センター)

○16日午後2時(上海時間の午後1時)から、本校の電話回線とで再度試験することを確認する。当日は、上海側は陸先生に通訳として参加して頂くように依頼するも未定とのこと。6年間日本で生活したことのある生徒も通訳をするとのこと。

○高松側は、馮さんが通訳として参加することが確認される。

○20日の本番では、双方の母国語と英語とで交流をすることが確認される。

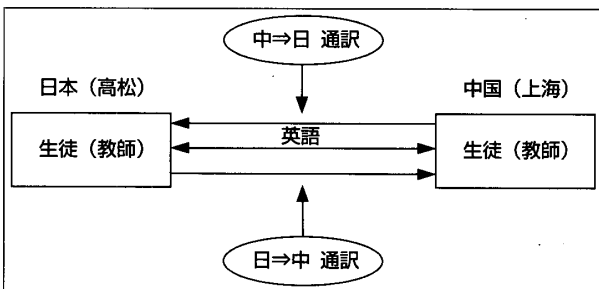


図3 交信の概念図

【10月16日(水)】

○正午、工学部院生4名と学部4回生1名来校する。宮内副会長、山崎先生来校する。

○馮さんが通訳として参加する予定であったが、上海出身の湯衛平さん(本校1年在学湯君の保護者)が急遽通訳として来校してくれることとなる。上海側も、陸先生が通訳として参加できないことが分かる。

○14時(上海時間13時)本校から電話する。きれいに繋がる。

○10月20日の最終打合せをして終える。

【10月18日(金)】

○蕭副校長からFAXあり。20日の開始時刻を当初の中国時間の10:15から、11:15に変更してほしいとのこと。

4 国際交流の実際

(1) 事前学習

湯さんに、上海の地誌を中心に現代中国事情について講義して頂いた。また、図4のような自己紹介カードを作成させた。

我是日詰裕雄。
爱好：読書

図4 自己紹介カード

さらには、日本の中学生として発信したい内容と中国の中学生に質問したい内容を、日本語と英語で書いてくることを周知し、テーマ例として表1のような助言をした。

表1 テーマ例

- ① あなたの国で食べたい食べ物、行きたい都市
- ② 私の国に来たら2泊3日でどこに連れて行きたいか
- ③ 将来の夢と希望
- ④ 勉強や遊び
- ⑤ 中学生の宝物・おもしろグッズ
- ⑥ お小遣いの額と使い道

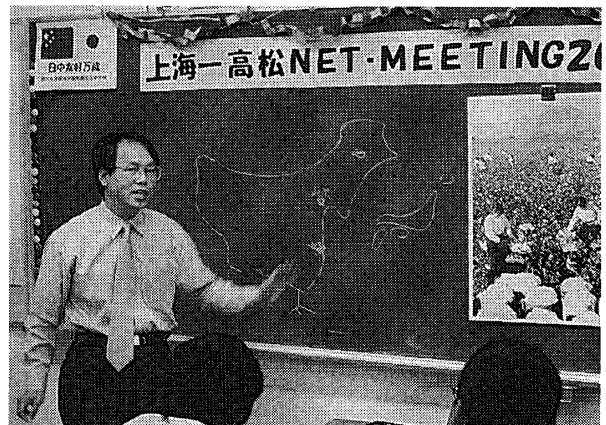


図5 事前学習風景

本校で計画した当日のプログラムは、表2の通りである。

表2 当日のプログラム

司会者挨拶	生徒A・B
梅香会会長挨拶	梅香会会長
生徒会長挨拶	生徒C
学校紹介1	生徒D・E・F・G
学校紹介2	
香川の文化紹介	生徒H・I・J・K
香川の食文化紹介	
興味があることについて	生徒L・M・N・O
中学生の生活について	
質問したいこと	生徒P・Q・R・S・T
最後のお礼	生徒A

(2) 教室のレイアウト構成

教室のレイアウト構成を図6に示す。まずカメラはテレビの上に置き画面を見ながらでも視線が大きくずれないようにしている。質問・返答・発表を行う生徒は発表者用のマイクの前で行う。または、相手からの質問には携帯用のマイクで座っている席からでも答えられる生徒が返答できるようにしている。

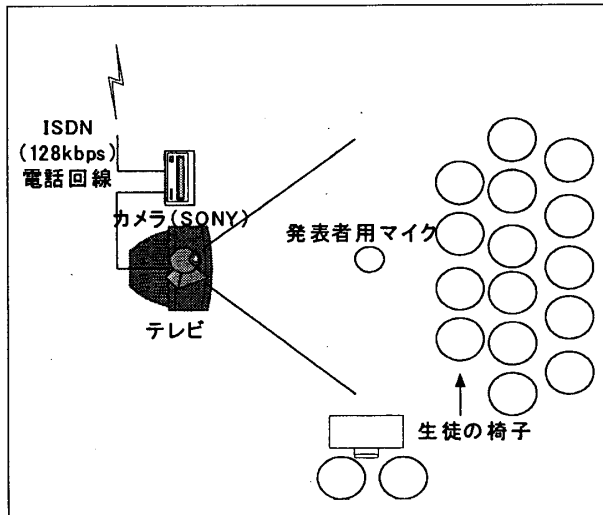


図6 教室のレイアウト構成

(3) 交流の実際

国際交流は、上海師範大学附属外国語中学と本校との間で、平成14年10月20日に実施した。この時の交流の流れを表3に示す。



図7 繋がった瞬間

表3 交流の会話の流れ

時間経過 (日本時間)	交流内容
12時10分~28分	香川の歴史や学校紹介など
12時28分~35分	上海側の自己紹介
12時35分~13時20分	フリートーク

表2のように、はじめは本校から英語・日本語を交えたり、中国語で書いたカードを使ったりして香川の歴史や文化・環境、さらには学校の特長や部活動・教科学習などの紹介をした。

「香川県には島が多くあってきれいです」「讃岐うどんは、昔弘法大師空海が中国から伝えたとされています」と説明をした後、実際にうどんを食べてみせたりもした。また、2002年に開催されたFIFAワールドカップのことについても、若者の間で人気のある中田英寿選手のことなど様々な感想を上海側に伝えた。

高松側からのここまでの発話は、相手からの質問もなく、前もって話す内容を決めていて、イラスト絵・実物などの詳細な資料などの準備もできていたので大きな問題もなく進行していった。

次に、抽出生徒Dの発言を再現する。(表4)

表4 発話抽出例1 (発話者D)

会 話 内 容
○私たちの学校には、362名の生徒がいます。
○私たちの学校の特色を幾つか紹介しましょう。
○1つ目は、将来先生になる大学生が勉強しに来ることです。
○1ヶ月間、彼らとふれあうことは私たちにとって大きな楽しみです。
○2つ目は部活動です。全部で11の部があります。
○例えば、こんな部があります。(絵を見せながら) ソフトテニス部・バスケットボール部・ベースボール部・サッカー部・剣道部などです。
○私たちは、これらの部に入って、学校生活を楽しくしています。

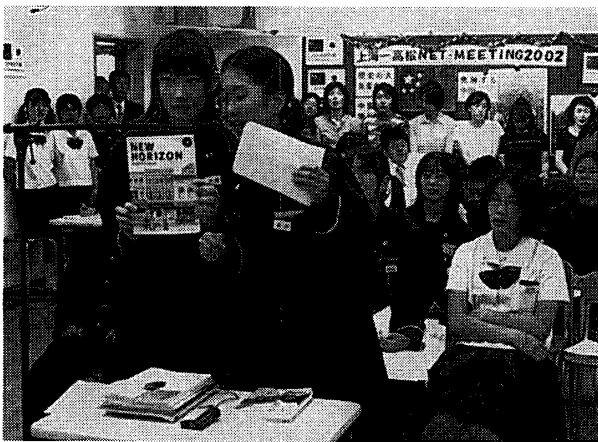


図8 教科学習紹介の様子

続いて上海側からは、学校施設の写真を見せての紹介がなされた。これも高松側と同様に、会話内容を前もって決めていたのではないと思われる。そのため、この部分も話す内容が途切れることなく交流時間が流れた。ただ、英語での紹介であったため、高松側には十分理解できなかった生徒もいたと思われる。

このやりとりの場面では、何か文章が残るような形で会話を支援するシステムが必要であることが分かった。その様なシステムがあれば、聞いただけでは分からない英文でも、目で見れば幾つかの単語の意味が分かれば、なんとか全体の文脈をつかむことができると思われる。簡単な翻訳が即時に可能な支援システムなどあれば、なお便利であると思われる。

表5 発話抽出例2 (発話者M)

時間	会 話 内 容	発話者
12:47	(何を聞こうか迷う)	
12:48	Do you like computer games?	高松M
	Yes.	上海全
	What game do you like?	高松M
12:49	(上海側で話し合っている。返答なし。)	
12:50	I like "MARIO".	高松M
	Do you know this game ?	高松M
	Yes.	上海全

後半のフリートークでは、上海側から「日本で人気のある漫画やゲームは?」「東京ディズニーランドへ行ったことは?」などと矢継ぎ早に質問があった。また、高松側からも「コンピュータ・ゲームは、何が好きか?」とか「マリオのゲームは知っているか?」などの質問をした。(表5)

ここでも、前半の準備した紹介とは違って、双方で直ぐに応答できずに会話が途切れてしまう場面が見られた。東京ディズニーランドへ行った経験のある生徒が高松側に一人もいなく、詳細な資料の準備もなかったため、掛け地図を利用しての位置の説明のみで終わった。

(4) 成果と課題

参加した生徒に、交流終了後5段階の評定尺度法と質問紙法にて調査した。調査項目と結果は次の通りであった。(回答18名;各項目末の括弧内は平均値)(表6・図9)

表6 調査項目と生徒の反応

1 日本や香川県のことを、もっと詳しく学習したい。	【3. 9】
2 上海の中学生の生活の様子や考え方などを、もっと詳しく知りたい。【4. 7】	
3 日本と中国とではどう違うのだろうか、共通点や相違点を整理して考えてみたい。【4. 4】	
4 今回交流して友達になった上海の中学生と手紙(FAX)や電子メール等を使って、継続的に交流をしていきたい。【4. 7】	
5 上海の中学生と自由に書き込みができる「掲示板」	

- があれば、継続的に交流を図っていきたい。【4. 6】
- 6 テレビ会議システムを使つての学習に興味があった。
【4. 4】
- 7 上海という都市や中国という国に興味・関心がわいた。
【4. 6】
- 8 将来、このような活動があれば、英語や相手国の言葉を使つて交流してみたい。【4. 8】

最初、すごく緊張しました。でも、上海の人たちから「こんにちは」と日本語であいさつされた時、すごくうれしかったです。私にとって初めて授業以外で外国の人と話す機会でした。

私たちは、事前に英文を作り、それを覚えて読んでいただけだったけれど、上海の中学生は何も見ないで、その場で自分の思いを英語にして積極的に私たちに質問してきました。すごいと思いました。また、中国で流行っている日本のキャラクターや漫画、本など日本との共通部分を話題にもちかけてくれました。

急な質問に戸惑いながらも、先生方や梅香会の方々の手助けで、絵や実物を使つて伝えることができました。“In English please.”と言われながらも、通訳をはさんでの日本語になってしまったけれど、気持ちは伝わったと思います。

私は、「司会」でしたが、それらしいことができず、最後の「時間切れ」ということを伝える時も、今なら英文にできるのに、その場では急に言えませんでした。もっと英語を勉強して、コミュニケーションが上手になりたいと思いました。でも、気持ちを伝えるのは言葉だけではないので、今回笑顔で交流し、お互いに楽しむことができたことが一番良かったです。交流すると、新しい発見がたくさんあって、楽しいです。

私はまだ一度も外国に行ったことがないので、ホームステイに行ってみたくなりました。また、もっと日本のことについても知って、調べて答えるのではなく、今回の東京ディズニーランドのこのように、とっさに聞かれても伝えられるようにしたいと思いました。

図9 交流を終た生徒Aの感想

表6や図9より、今回の国際交流が生徒にとってことのほか大きな成果をもたらしたことが分かる。ただし、調査項目「1 日本や香川県のことを、もっと詳しく学習したい。」の平均値が【3. 9】と他項目に較べて際立って低かった

ことから分かるように、国際交流の出発点が自国の文化や伝統を知ることであることについては、十分な認識を形成することができなかった。

また、技術的なことでは、次のような反省点を確認できた。

○上海からの映像は、そのまま他の大型スクリーンに映し出しながら、同時に記録用にビデオ録画する方がよい。

○カメラのコントロールは、手動の方がよい。

○生徒のテロップは、固定した書画カメラで送る方がよい。

5 おわりに

第3日曜日の有効な活用と異文化理解とを目的として、日中間で国際交流を実施した。その結果、次のような知見が得られた。

(1) 諸環境の異なる2国間でも、同世代であれば共通の話題も豊富で交流が可能であること。

(2) 限られた時間内での交流を充実させるためには、前もって相手側の意思を確認する過程が必要であること。

(3) 電話回線を繋ぐまでには、言葉の壁を始めとした多くの困難があるが、時間をかけた努力で乗り越えられること。

(4) ISDN128kbpsの1回線でも、事前の準備をしっかりやれば、良い画質で発信できること。

(5) 保護者と連携して事業を遂行すると、進んで学校を開くことになり、保護者の深い理解が得られること。

本企画実施にあたり、金倉謙次梅香会会長はじめ役員の皆様から多大のご支援を受けました。また、近藤浩二香川大学前学長並びに木原溥幸附属高松中学校長には、終始深いご理解と温かいご支援を頂戴しました。ここに深甚の謝意を表します。

テレビ会議システムの事前準備から実施に至るまで、工学部院生のひたむきな支援をうけました。甚大のお礼を申し上げます。

『电视会収 大成功 非常感謝。』

(2003年3月31日受理)